えられた.

49. 高濃度IMPを用いたPatlak法の可能性
——技術的検討——

岡本　邦雄　　牛嶋　　陽　　奥山　智緒
興津　茂行　　武部　義行　　新居　　健
杉原　洋樹　　前田　知穂　（京府医大・放）

高濃度IMPの臨床使用が可能となったので，急速静注によるPatlak Plot法を用いた定量的な脳血流測定の可能性を検討する目的で以下の測定を行った.

仰臥位にて右側頭部，心，肺がγカメラ視野内に入るように設定して167～222 MBqのIMPを右肘静脈より生食10 ml以上にて収集開始5秒後より急速投与する.

収集装置東芝GCA-901Aにて128×128マトリックス，2秒×64 F+60秒×1 Fのデータ収集を行う.

処理装置東芝GCA-550Uにて HMPAO用に作られた解析ソフトを使用してデータ処理を行った.

健常ボランティア4名のmCBF値は33.9，33.2，36.2，34.8 ml/100 ml/minであり一定の測定値が得られた．高濃度IMPを用いたPatlak Plot法による定量的な脳血流の測定は可能であると思われた.

今後この方法によって得られた測定値を用いて以下の検討を行いたい.

① 他の測定法との相関を求めIMP，Patlak Plot法のソフトを確立する.

② 肺への集積による測定値への影響の検討と補正法の確立.

③ 臨床的有用性の検討.

50. 摘脾後肝コロイドシンチグラフィにて脾移植片と肺描画を呈した1例

松尾　良一　　村田佳津子　　真鍋　隆夫
辻田祐二良　　田中　正博　　小田　淳郎
（大阪市総合医療セ・放）
永原　　暹　（同・小児外）
藤波　　彰　（淀川保健所）
越智　宏暢　（大阪市大・核）

われわれは，摘脾後肝コロイドシンチグラフィにて長期間経過を観察しえた症例を経験した.

症例は手術時3歳の女児．ビルビン酸キナーゼ異常症にて溶血性貧血があり，脾摘目的で当院小児外科に入院した．入院時血液検査にて高度の貧血と間接ビリルビン高値を示した．昭和60年11月26日に脾全摘術および脾上極部5スライスを大網に移植した.

術後21日目のコロイド肝シンチでは脾移植片は描画されず，両肺野に肝より低いRI集積を認める．この時期貧血は改善していた．術後約3か月のシンチでは脾移植片の描画と，両肺野の肝より高いRI集積を認めた．術後2年7か月後，および7年後のシンチでは脾移植片は明瞭に描画され，増大していた．また貧血は時期を追って高度となっていた.

脾移植片は1か月後では描画されず，3か月以後描画されるとの報告がなされており，本症例もそれに合致した．肺描画の原因は種々報告されているが，当症例では術後にみられたことから脾摘が関与したものと思われる．また，肺集積の機構は，1) 核種の凝集化がおこり肺に微小血栓を作る．2) 肺網細血管床の網内機能系の亢進．3) フィブリンが血管内に沈着し核種が捕らえられる．4) 肝障害により肝への取り込みが低下し代償的に肺に取り込まれる．などの説があるが，本症例は脾摘後で肺網内機能系が亢進したのではないかと考えられた.

51. ^{99m}Tc-GSA SPECTにより経時的に観察し得た腺腫様過形成から癌化したと思われる肝癌の一症例

彭　　信義　　末吉　公三　　山本　和宏
辰　　吉光　　中田　和伸　　難波隆一郎
芦名　謙介　　足立　　至　　松井　律夫
清水　雅史　　楢林　　勇　（大阪医大・放）

哺乳類の肝細胞内のみに存在するアシアロ糖蛋白に対するレセプターは，その総数が理論的に機能している肝細胞の総数に比例していると考えられる．^{99m}Tc-DTPA-galactosyl human serum albmin (以下 ^{99m}Tc-GSA) は，このレセプターでアシアロ糖蛋白と全く同様に認識され結合するため，近年種々の肝疾患における肝機能評価として利用されている．現在さらにSPECTを利用することにより局所肝機能や肝癌をはじめとする肝腫瘤の形態的な変化をも評価できる．今回，肝硬変を有する肝細胞癌 (hepatocellular

Presented by Medical*Online